

2月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎（1～2日）モハメッド6世国王の南スーダン公式訪問
- ◎（16～18日）モハメッド6世国王のガーナ公式訪問
- ◎（19～23日）モハメッド6世国王のザンビア公式訪問
- ◎（23～24日）モハメッド6世国王のギニア公式訪問
- ◎（24日）モロッコによるECOWAS加盟意思の表明
- ◎（24日～）モハメッド6世国王のコートジボワール公式訪問

<内政・政局・治安>

1 内政

（1）国会の閉会

9日、参議院は2016年秋期会期を閉会、これに引き続き、13日、衆議院も閉会した。新内閣が発足していないため、今会期では衆議院執行部の選出とAU制定法の可決のみが行われた。

（2）ベンキラン首相によるUSFP批判

12日にブーズニカで行われた公正と発展党（PJD）全国評議会で、ベンキラン首相は、「どうして衆議院選挙で20議席しか得ていない党（人民勢力社会主義同盟（USFP））が同党抜きでは政府は発足しないと述べるまでに、組閣交渉をブロックすることができるのか」と述べるなど、USFPに対して不快感を表明し、組閣プロセスに進展がないことを示した。

2 治安

（1）1月27日に解体されたテロ細胞の新たなメンバー3名の逮捕

（ア）6日、中央司法捜査局（BCIJ）は、1月27日に解体されたテロ細胞の計画に参与していたとして、マルティル（テトゥアン近郊）及びブラアワンヌ（エル・ジャディーダ県）で、3名の者を逮捕した。このテロ細胞の解体の際、エル・ジャディーダ

の隠れ家で押収した疑わしい物品は、科学鑑定の結果、爆発物の準備に使用される化学物質や、爆発装置及び自爆ベルトの製造に使われる物質であることが明らかになった。

(イ) このテロ細胞のメンバーは、I S I Lが開発した残忍な手段、爆発物の敷設や遠隔爆破の教えを乞うため、リビアのI S I Lから爆発物の専門家を受け入れようとしていた。

(ウ) この細胞のメンバーは、ブラアワンヌ地域において、「I S I Lモロッコ州」の呼称でI S I Lと同盟を結んだ後方基地の創設を計画しており、モロッコにおける複数のテロ計画の実施拠点とすることを企図していた。

(2) サブサハラ移民のモロッコからスペイン領セウタへの越境

(ア) 20日、約600名のサブサハラ移民がセウタへの越境を試み、359名が成功した。これらの移民は大ばさみとハンマーを用いて入口を破壊した後に進入した。今回の越境は498名の移民が越境に成功した17日同様、監視が困難な領域で発生した。

(イ) セウタ赤十字のスポークスマン・イザベル・ブラセロ氏によれば、越境者の中に深刻な怪我人はおらず、11名を病院に搬送し、8名が縫合を必要とし、3名がレントゲン検査を受診した。セウタ県は、警備員2名と移民1名がある程度重傷の治療を受けたとしている。

<外交・国際関係>

1 アフリカ関係

(1) モハメッド6世国王の南スーダン訪問

(ア) 9の二国間協力協定の署名

1日、モロッコ外務・協力省は、1日からイスマイル王子とともに南スーダンを訪問しているモハメッド6世国王が、キール南スーダン大統領とともに、9の二国間協力協定の署名式に出席した旨発表したところ、概要以下のとおり。

- ① 1日、ジュバで、モハメッド6世国王とサルヴァ・キール・マヤルディト南スーダン大統領は、様々な分野における9つの二国間協力協定の署名式を執り行った。
- ② この署名式の冒頭、ハッサド内務大臣は、南南協力にかかる国王のヴィジョンに従い、かつ、モロッコと南スーダンの友好関係の枠組みにおいて、「モロッコは、南スーダンの新首都建築を支援するために、都市化と都市開発に関するその経験の共有をコミットしている」と強調した。同内務大臣はまた、モロッコがこの大規模プロジェクトの技術・財政フィージビリティ・スタディのために約510万米ドルの支援を約束したと述べるとともに、予備的調査としてまず、都市化と社会・経済・環境面の調査が行われるであろうと述べた。同大臣は更に、これらの調査が主導計画案、技術・財政の組合せ研究及び実現計画の端緒となるであろうと述べつつ、モロッコはこの計画の実現の様々なフェーズで南スーダンを支援する旨述べた。同大臣は、モハメッド6世国王によって任命される実行委員会の監視の下、モロッコ側の本計画の管理はアル・オムランヌ・グループに委託されると述べつつ、フォローアップ委員会の設置を発表し、この委員会は毎年最低2回開会されると述べた。
- ③ 今回署名された9の協定は、アフリカ大陸諸国との協力パートナーシップの関係強化の枠組みに位置付けられ、連带的かつ活発な南南協力強化のためのモハメッド6世国王の隙のない取組を反映したものである。南南協力は、アフリカの兄弟国の国民のために、モロッコ外交政策の主要軸として国王により主導されている。以下の協定が関係閣僚等により署名された。
 - ラムシエル（Ramciel）の新都市実現にかかる協定
 - 一般協力協定
 - 投資促進・保護協定
 - 二重課税禁止・所得税支払い回避防止協定
 - 農業分野覚書（M○U）
 - 産業協力覚書（M○U）
 - 鉱物分野協力覚書（M○U）
 - 職業訓練協力協定
 - モロッコ経団連（CGEM）・南スーダン・ビジネス・雇用者連合（SSBEF）間の覚書（M○U）

(イ) 共同コミュニケの発出

2日、モロッコ外務・協力省は、モハメッド6世国王の今次南スーダン訪問に際しての共同コミュニケを発表したところ、共同コミュニケ概要以下のとおり。

- ① サルヴァ・キール・マヤルディト南スーダン大統領の招待を受け、モハメッド6世国王は2月1日から2日までジュバを公式訪問した。ハイレベルの代表団がモハメッド6世国王に同行した。
- ② 今次訪問は、汎アフリカ主義、連帯及び友愛の価値に対するモハメッド6世国王とキール南スーダン大統領の取組を表しており、モロッコが南スーダンの安定化の強化と同国の平和構築プロセスに貢献するという強い意思を証明している。
- ③ モハメッド6世国王とキール南スーダン大統領は会談で、両国間の友好関係を称賛し、モロッコと南スーダンの強い二国間関係の強化への献身を表明した。
- ④ 両首脳は、二国間関係の発展に勢いをつけるための多数の分野を特定し、相互に裨益し、富を創出する南南協力を推進する決意を表明した。これには、種々の国際開発基金の動員と、持続可能な開発を管理し、南スーダンがその挑戦を克服するために尽力している際に地元住民の生活様式を改善するために必要な専門性のための三角協カメカニズムが含まれる。
- ⑤ 両首脳は、主要セクターにおける各種協定とM○Uの署名式を執り行った。モハメッド6世国王とキール南スーダン大統領は、ラムシエルの新都市建設にかかる協定の署名式に喜んで出席した。他の協定及びM○Uは、農業、エネルギー、鉱物、炭化水素、産業、投資、課税回避防止、職業訓練、財界間の経済パートナーシップをカバーしている。これらの協定はそれらの分野において二国間協力の新しい地平を開くものである。
- ⑥ この文脈で、モハメッド6世国王はキール南スーダン大統領に対し、安定化と新しい国家の建設に貢献するために、治安と経済・社会開発の分野でモロッコの経験を共有する意向を確約した。
- ⑦ モハメッド6世国王は、キール南スーダン大統領が国家対話のための最近表明した呼びかけを称賛し、この呼びかけを、2020年までに武器を捨てるとするAUの目標実現と、安定し、開発され、繁栄した南スーダンの実現のために野心的なイニシアティブであると評価した。
- ⑧ この訪問中、モハメッド6世国王とキール南スーダン大統領は、南スーダンに対するモロッコによる複数の人的開発プロジェクトの開始と発表式典を執り行った。これは、南スーダン国民に対するモロッコの連帯を具体的な方法で反映するものである。これに関し、両首脳は、地域住民に医療を提供するために王立軍（FAR）がジュバで展開した野戦病院を公式に開設した。
- ⑨ 両首脳は同様に、モロッコにより供与された人的支援センターを訪問した。この機会に、モハメッド6世国王は、多数の国内難民のために支援の一部を供与した（注：

当地国営MAP通信によれば、267.5トンの食料、70トン分のテント、10トン分の毛布等を供与)。

- ⑩ 更に、両首脳がジュバの主要病院を訪問した際、モハメッド6世国王は、持続可能な開発のためのモハメッド6世財団が寛大に供与した医療機材を寄贈した。
- ⑪ キール南スーダン大統領は、アフリカ間協力・南南協力の強化のためのモハメッド国王のヴィジョンを歓迎するとともに、平和と安定の保護及びアフリカ大陸の繁栄推進のための同国王の努力を歓迎した。
- ⑫ キール南スーダン大統領は、サハラ問題がその発生原因と法的・政治的性質において南スーダン問題と異なることを理解しつつ、サハラの地域紛争を政治的な解決に導くための国連の努力を再認識した。同大統領は、モロッコの誠実かつ信頼できる努力を歓迎した。
- ⑬ キール南スーダン大統領は、モロッコのAU復帰に関し、モハメッド6世国王を祝福し、大多数のアフリカ諸国がモロッコに与えた支持を称賛した。キール南スーダン大統領は同様に、アフリカ大陸の開発、一体性及び安定のためのモロッコの役割と効果的な貢献を強調した。
- ⑭ 両首脳は、特に東アフリカ地域における持続可能な開発戦略の実施にかかる、IGADやEACなどサブサハラ・アフリカの地域諸機関の重要な役割を強調した。
- ⑮ 両首脳は、これら2つの準地域機関により開始された統合プロセスを歓迎した。この点に関し、キール南スーダン大統領は、東アフリカの開発と安定に貢献するためのモロッコの大きな潜在性を称賛し、モロッコと東アフリカ地域の関係強化を呼びかけた。

(2) モハメッド6世国王のガーナ公式訪問

(ア) 25の二国間協力協定の署名

17日、モロッコ外務・協力省は、16日からムーレイ・イスマイル王子と共にガーナを訪問しているモハメッド6世国王が25の二国間協力協定の署名式に出席した旨を発表したところ、概要以下のとおり。

- ① 17日、モハメッド6世国王とアクフォ＝アド・ガーナ大統領は、二国間協力の様々な分野における25の政府間協定と官民連携協定の署名式を執り行った。
- ② この署名式の冒頭、ダンカウォソ・ガーナ商工会議所会頭は、1月にアクラで行われたモロッコ・ガーナ・ビジネス・フォーラムの成功を強調した。このフォーラムには、モロッコとガーナの多数のビジネス関係者が参加し、両国間の双方向の投資と貿易を促進する方法が議論された。同会頭は、この重要なフォーラムにより、農業、食品産業、情報通信技術、銀行業など、今後発展の見込まれる付加価値の高い分野における協力プラットフォームが設置された旨述べた。また、同会頭は、雇用を創設し、ガーナの国内経済を促進するために、ガーナ政府による投資環境改善の

ための更なる努力が求められる旨述べた。

- ③ これに対し、ベンサラ＝シャクルン・モロッコ経団連（CGEM）会長は、拡大するグローバルゼーションの中で、アフリカは雇用と市場の創出及びそのアイデンティティの保護に関連する共通の課題に対処しつつ、その固有の将来のために道を切り開かなければならない旨述べた。同会長は、アフリカの開発が「我々の豊かな天然資源、若年層のダイナミズム及び莫大な人的資源から利益を生み出す政策能力」にかかっていると述べた。同会長はまた、「モハメッド6世国王の賢明なリーダーシップにより、モロッコ企業は20以上のアフリカ諸国で活動し、モロッコの銀行が26か国で打ち立てた強力な金融ネットワークにより支えられている」と強調した。

- ④ 署名された協定は以下のとおり。

（政府間協定）

- 投資促進・相互保護協定締結のための交渉開始にかかる政府間覚書（M○U）
- 所得税にかかる二重課税・支払い回避防止協定
- 小規模農業者支援協定
- 産業協力議定書
- モロッコ標準化機関（IMANOR）・ガーナ標準化当局（GSA）間の覚書（M○U）

（官民連携協定）

- モロッコ・ガーナ商業評議会設置のための覚書（M○U）
- 気候変動対策のためのグローバルな民間セクター約束
- 金融、国際化及び戦略パートナー創設のためのガーナ商工会議所会員への支援覚書（M○U）
- ガーナ産業協会会員への投資・財政支援及びアフリカ・欧州銀行ネットワークを通じた国際化開発プロセス支援のための覚書（M○U）
- ガーナにおける電化率向上のための技術能力開発を目的とした、BMCEアフリカ銀行によるガーナ電力会社に対する1000万米ドルの支援
- 保険分野における技術協力協定
- アティジャリワファ銀行とGCB銀行間の覚書（M○U）
- モロッコ、ガーナ及びその他諸国における貿易オペレーション支援及びリスク・シェアリングのための一般協力覚書（M○U）
- 小規模農業者金融支援覚書（M○U）
- 再生可能エネルギープロジェクト開発のための覚書（M○U）
- モロッコ炭化水素鉱山公社（ONHYM）とガーナ鉱物委員会間の科学技術協力覚書（M○U）
- モロッコ観光公社とガーナ投資促進センター間の覚書（M○U）

- 開発, 委譲, 技術, 金融, 訓練の分野における企業交流のための二国間協力枠組み設置のための覚書 (M○U)
- I T H M A R キャピタル (注: モロッコ・ソブリン・ファンド) とガーナ投資基金間のインフラ投資覚書 (M○U)
- I T H M A R キャピタルとガーナ投資基金間の戦略パートナーシップ
- 農業開発・保険覚書 (M○U)
- M A M D A 保険会社とガーナ再保険会社間の覚書 (M○U)
- 中小企業融資のための両国金融市場の緊密化のための覚書 (M○U)
- カサブランカ取引市場とガーナ証券取引所間の経験共有覚書 (M○U)
- S N T L と C A P 3 サービス間の覚書 (M○U)

(イ) 共同コミュニケの発出

19日, モロッコ外務・協力省は, モハメッド6世国王の今次ガーナ公式訪問に際しての共同コミュニケを発表したところ, 共同コミュニケ概要以下のとおり。

- ① アクフォ＝アド・ガーナ大統領の招待を受け, モハメッド6世国王は2月16日から18日までガーナを公式訪問した。
- ② モハメッド6世国王には, 外務・協力大臣, 経済・財政大臣, エネルギー・鉱山・水利・環境大臣, 産業・貿易・投資・デジタル経済大臣, 農業・海洋漁業大臣を含むハイレベルの代表団, 民間セクターの代表団, 他の政府高官が同行した。
- ③ 今次公式訪問に際し, 両国首脳は和やかな雰囲気の中, 実りある会談を行ったほか, 両国の閣僚は各種二国間協議を行った。両国は, 経済・商業分野を中心とした全ての分野における二国間協力を改善し, 多様化する必要性を強調した。
- ④ モハメッド6世国王とアクフォ＝アド・ガーナ大統領は, 2015年2月11日及び12日にラバトで開催された合同委員会第1回会合を歓迎するとともに, 両国間の真のパートナーシップにかかるこの協力メカニズムを強化することで合意した。
- ⑤ モハメッド6世国王は, アフリカ大陸における海外直接投資の架け橋となっているガーナの投資政策を歓迎した。両国首脳は, 官民セクターのイニシアティブを結びつける真の経済パートナーシップを発展させる必要性を強調した。
- ⑥ アクフォ＝アド・ガーナ大統領は, 西アフリカ地域の開発と安定のためのモロッコの貢献を歓迎するとともに, モロッコとE C O W A S の関係強化を呼びかけた。
- ⑦ 両国首脳は, 共通の利益にかかる地域・国際諸問題を協議し, 国際諸問題に関する両国の立場の収斂を歓迎した。両国首脳は, 運輸, 観光, エネルギー, 貿易, 漁業及び農業など, ガーナとモロッコの間の協力を飛躍させるための複数の分野を特定した。
- ⑧ アクフォ＝アド・ガーナ大統領は, 2016年10月7日にモロッコで平和裡に行われた選挙についてモハメッド6世国王を祝福した。この選挙は, 2011年にモハメッド6世国王により導入された憲法改正の成功を十分に証明した。アクフォ＝

アド・ガーナ大統領は同様に、2016年にモハメッド6世国王に授与されたネルソン・マンデラ賞及びアフリカ大陸で広く知られ、見本となる同国王のリーダーシップを祝福した。

- ⑨ モハメッド6世国王は、ガーナ大統領という要職に就任したアクフォ＝アド・ガーナ大統領を祝福するとともに、2016年12月7日に行われた選挙における同大統領の大勝利は、ガーナ国民による同大統領への信任の表明であり、同大統領の人柄と公務に対する不変の取組を証明している旨述べた。
- ⑩ 両国首脳は、ガーナとモロッコを結びつける長きに亘る友好関係を再認識した。この関係は、両国創設の父達が、植民地支配に対抗して勢力を結集したアフリカにおける解放運動の時代に遡る。
- ⑪ 両国首脳は、共通の課題に協力して取り組むための断固とした取組を再表明し、その協力を更に強化する意思を強調した。両者は同様に、両国が定期的なハイレベル協議を行い、マルチの機関の選挙の際に相互支持を行うことを合意した。
- ⑫ アクフォ＝アド・ガーナ大統領は、モロッコのAU復帰についてモハメッド6世国王を祝福し、モロッコの復帰は疑いなくアフリカ大陸に利益をもたらし、AUに更なるダイナミズムを与えるであろうと強調した。
- ⑬ 両国首脳は、如何なる形式であれ、テロと過激主義を非難し、この災いに対抗する地域的・国際的な努力に対する両国の支援を強調した。
- ⑭ 両国首脳は、サヘル・アラブ諸国国家共同体（CEN-SAD）の新たな勢いに対して満足の意を表明するとともに、とりわけサヘル地域におけるその加盟国の平和・安全・安定のための役割を十分に果たせるよう、この地域機関の再活性化に対する努力の結集を合意した。
- ⑮ アクフォ＝アド・ガーナ大統領は、北西アフリカ・フォーラムの創設にかかるガーナの関心を表明した。このフォーラムは、政治・経済・社会・文化の分野における共通の利益にかかる諸課題のその加盟国間協議を強化するためのものであり、共通のグローバル戦略を構築し、地域における持続可能な人的開発を実現するものである。この点に関し、ナイジェリア・モロッコ間のガス・パイプラインの建設は、プロジェクトが完了した暁には、全通過国に利益をもたらすものである。両国首脳は、このガス・パイプラインが、モハメッド6世国王が常々推奨しているようなアフリカの開発モデルを保障するために、アフリカ各国が促進すべき南南協力のシンボルとなると評価する。
- ⑯ アクフォ＝アド・ガーナ大統領とモハメッド6世国王は、農業、産業、金融、二重課税防止など様々な分野をカバーする覚書と協定の署名式を執り行った。両国首脳は、アフリカ大陸における南南協力のモデルとなるような両国間の野心的な官民パートナーシップを呼びかけた。

(3) モハメッド6世国王のザンビア公式訪問

(ア) 19の二国間協力協定・覚書の署名

20日、モロッコ外務・協力省は、19日からムーレイ・イスマイル王子とともにザンビアを訪問しているモハメッド6世国王が19の二国間協力協定・覚書の署名式に出席した旨発表したところ、概要以下のとおり。

- ① 20日、モハメッド6世国王とエドガー・ルング・ザンビア大統領は、両国間の19の政府間・経済パートナー間協定の署名式を執り行った。
- ② これらの協定は南南パートナーシップ強化のための国王の方針の一環をなし、両国政府間及び民間セクター間の実りある協力を組織化するための適切な法的枠組みを構築するものである。
- ③ これらの協定は、政治協議、航空サービス、投資保護、金融、保険、教育、訓練、観光、農業、技術、産業、鉱業及び再生可能エネルギーなど様々な分野をカバーするものである。
- ④ この機会に、ジョフリー・サクランダ・ザンビア商工会議所会頭は、モハメッド6世国王とエドガー・ルング・ザンビア大統領を前にスピーチを行った。同会頭はこのスピーチの中で、モハメッド6世国王の今次ザンビア訪問を嬉しく思うと述べつつ、今次訪問は、両国のビジネス界が経済パートナーシップを協議する良い機会を与えたと述べた。
- ⑤ また、同会頭は18日にルサカで行われたモロッコ・ザンビア・経済フォーラムに触れ、両国間の経済評議会の設置を歓迎した。この評議会は調整機構として両国間の関係を推進するものであり、両国経済の補完性と新たなシナジーの創設に貢献するであろう。同会頭はさらに、ザンビアにおける投資機会を説明し、とりわけザンビアにあふれる天然資源、政治的安定、経済環境、地理的環境、政府により行われているセクター別の開発政策などを説明した。
- ⑥ これに対し、ベンサラ＝シャクルン・モロッコ経団連（CGEM）会長は、統合されたアプローチを用いつつ、多様化せんとするザンビア経済の新たな方向性はモロッコの経済戦略と軌を一にしていると述べた。また、ベンサラ会長は、先日開催されたモロッコ・ザンビア・経済フォーラムにより、エネルギー、農業、農産業、鉱業、観光、情報通信新技術、金融、インフラ及び住宅など、様々な協力セクターを特定することができたと述べた。ベンサラ会長は、このフォーラムが、モハメッド6世国王が推進する南南経済統合強化の必要性を強調する良い機会となったと述べてつつ、フォーラム参加者は両国間の経済協力を更に発展させるために経済評議会の設置に合意したと述べた。また、拡大するグローバリズムの文脈で、同会長は、「我々は、次世代により良い将来を保証するために行動しなければならず、雇用の創出、持続可能な開発及び地域間経済統合に関連する共通の課題を共に対処する必要がある」と述べた。

⑦ 署名された協定・覚書は以下のとおり。

- 経済・科学・技術・文化協力一般協定
- 政治協議メカニズム設立覚書
- 教育・訓練・実習の分野にかかる協力協定
- 航空サービス協定
- 投資保護・相互促進協定
- 産業協力覚書
- 農業セクター覚書
- ザンビア鉱山・鉱物開発省とモロッコ炭化水素鉱山公社（ONHYM）間の覚書
- 再生可能エネルギープロジェクト開発協力覚書
- モロッコ観光公社（OMMT）とザンビア観光庁間の観光分野の覚書
- ザンビア開発庁とタンジェ・地中海特別庁（TMSA）間の覚書
- ザンビア開発庁とカサブランカ・ファイナンス・シティ庁（CFCA）間の覚書
- 経済評議会設置のための覚書
- モロッコ・クレディ・アグリコル・グループとザンビア開発銀行間の覚書
- アティジャリワファ銀行とザンビア国立商業銀行間の覚書
- 人民中央銀行（BCP）とザンビア国立商業銀行間の覚書
- モロッコ保険・再保険会社連盟とザンビア保険協会間の覚書
- モロッコ農業保険相互組合（MAMDA）とザンビア保険公社間のザンビアにおける収穫保険開発のための協力協定
- MAMDA再保険会社（MAMDA-Re）とザンビア・限定責務再保険会社間の覚書

（イ）共同コミュニケの発出

23日、モロッコ外務・協力省は、モハメッド6世国王の今次ザンビア公式訪問に際しての共同コミュニケを発表したところ、概要以下のとおり。なお、ザンビア公式訪問は当初19日から21日までの日程で予定されていたが、次の訪問地であるギニアにおける教員デモの激化を受けて、ザンビア訪問が23日まで延長された旨報じられている。

- ① ルング・ザンビア大統領の招待を受け、モハメッド6世国王は国賓として、2月19日から21日まで（ママ）ザンビアを公式訪問した。
- ② この期間中、ルング大統領とモハメッド6世国王は、1月22日から31日までアディスアベバで行われた第28回AU総会の結果に満足の意を表明した。ルング大統領はモロッコのAU復帰を歓迎し、アフリカの発展と安定に対するモロッコからの未来の貢献に道を開いた歴史的な瞬間として、この総会で行われたモハメッド6世国王の演説を歓迎した。

- ③ ルング大統領はまた、モハメッド6世国王のヴィジョンの賜であるアフリカにおけるモロッコの戦略的取組を称賛した。
- ④ 両国首脳は、アフリカの安定と繁栄を保証する両国の確実な取組を表明した。この点に関し、モハメッド6世国王はルング大統領に対し、ザンビアのAU平和安全保障理事会議長としての任期中、ザンビアに対するモロッコによる不変の支持を約束した。
- ⑤ 両国首脳は、ザンビアとモロッコの友好・協力関係の更なる強化を約束した。実りある首脳会談の際に、両国の国家元首は、バイ・地域・マルチのレベルにおける共通の関心にかかる諸課題を協議した。この協議は非常に和やかな雰囲気の中で行われ、ザンビアとモロッコの長期に亘る緊密かつ友好的な関係を示すものであった。
- ⑥ モハメッド6世国王は、ザンビアの経済的・社会的成長を発展させるためのルング大統領のイニシアティブを称賛した。同国王は同様に、準地域的なアクターとしてのザンビアの役割を促進するためのルング大統領の努力を称賛するとともに、同大統領に対し、モロッコの不変の支持を約束した。
- ⑦ モハメッド6世国王とルング大統領は、経済成長や、農業、観光、再生可能エネルギー、教育、訓練、産業、投資、航空サービス、金融サービス及び保険など多数のセクター開発、並びに経済ゾーン開発における、官民による投資の重要性を強調した。
- ⑧ この観点から、両国の国家元首は、ザンビアとモロッコのビジネス界を結集させたビジネス・フォーラムの実りある結果に満足の意を表明した。
- ⑨ 両国の国家元首は同様に、上記の分野における複数の二国間協定及び覚書の署名式を執り行った。これらは、ザンビアとモロッコの二国間協力を組織化する法的枠組みを提供するものである。
- ⑩ ルング大統領とモハメッド6世国王は、ザンビア・モロッコ間の協力に関する常設の合同委員会を設置する必要性について合意した。この合同委員会は、両国間の経済・社会協力を強化するために必要な法的枠組みを提供することとなる。
- ⑪ 平和と安全にかかる諸課題に関し、両国の国家元首は、アフリカ大陸における経済アジェンダの推進に相応しい環境をもたらすために、全ての形式のテロと戦い、アフリカ大陸における平和、安全及び安定を促進し、アフリカにおいて現在行われている（複数の）紛争に対して持続可能な解決を導くための約束を強調した。
- ⑫ モハメッド6世国王とルング大統領は、2016年11月にマラケシュで行われたCOP22の成功と同会議中に行われた重要な決定を歓迎した。この観点から、ルング大統領はモハメッド6世国王に対し、COP22のマージンで行われたアフリカ首脳サミット、及びアフリカにおける気候変動にかかる諸課題への回答としてのアフリカ農業適用（AAA）イニシアティブを称賛した。

(4) モロッコによるECOWAS加盟意思の表明

24日、モロッコ外務・協力省はモロッコのECOWAS加盟意思を表明したところ、概要以下のとおり。

(ア) 現在行われているアフリカ就中西アフリカ諸国への国王歴訪の文脈で、24日、モロッコは、モハメッド6世国王の命に従い、サーリーフ・リベリア大統領（ECOWAS現議長）に対し、完全なメンバーとしてECOWASに加盟する意思を通報した。

(イ) この申請はECOWAS設立条約の規定に基づいて行われるとともに、その加盟条件に完全に応えている。

(ウ) モロッコの働きかけは、ECOWAS加盟国間との政治的・人的・歴史的・宗教的・経済的なレベルで強固な関係を具現化している。これらの関係はここ数年間で、とりわけ当該地域の11か国における23回に亘る国王訪問を通じて強化された。これらの国王訪問の際に締結された数百の協定は、ECOWAS加盟15か国との二国間協力を飛躍させた。

(エ) モロッコは同様に、数年前に取得したそのオブザーバー資格を通じて、ECOWASと機動的な関係を有している。モロッコはオブザーバーとしてECOWASの多数の会議に参加し、とりわけ平和と安全の分野などにおける活動に貢献してきた。

(オ) モロッコはまた地域の平和維持活動（とりわけコートジボワール）に参加し、紛争解決のための仲介努力（マノ川流域国危機における仲介、2009-2010年のギニアにおける深刻な危機解決のための貢献、ギニアビサウ安定化のための貢献等）にも参加した。

(カ) モロッコは更に、とりわけエボラの流行や自然災害の際に地域諸国と連帯した活動を行った。また、モロッコはECOWAS加盟国とともに、当該地域諸国を通過するモロッコ・ナイジェリア・ガスパイプラインや、安定と発展のスペースとしての北西アフリカ・スペース（un Espace Nord-Ouest Africain）の促進など、構造化を促すプロジェクトを開始した。

(キ) このECOWAS加盟の意思は、アフリカ経済発展の要としての地域統合にかかる国王のヴィジョンに位置付けられる。

(ク) この意思はまさに、モロッコのAU復帰に代表される国王のアフリカ政策から生まれたものである。

(ケ) モロッコは、ECOWASの活動に貢献し、とりわけ安定、経済発展及び持続可能な人的開発の分野におけるECOWASの活動により高い価値をもたらすための措置を具体化する。この加盟申請は同様に、ECOWAS加盟国とともに、それら諸国と連帯しつつ、地域が直面する諸課題に対抗するためのモロッコの取組である。

(コ) モロッコのECOWAS加盟申請は、アフリカ大陸で最も野心的かつ最も進んだ統合プロセスを有するこの地域共同体の重要性に対するモロッコの認識をより具体的な方法で強調している。

(5) モハメッド6世国王のギニア公式訪問

(ア) 8の二国間協力協定の署名

23日からムーレイ・イスマイル王子とともにギニアを訪問しているモハメッド6世国王が8の二国間協力協定・覚書の署名式に出席したところ、概要以下のとおり。

- ① 23日、モハメッド6世国王とコンデ・ギニア大統領は、8本の二国間協力協定の署名式を執り行った。この機会に、コンデ大統領は、モハメッド6世国王のギニア滞在は、モロッコとギニア間で締結された多数の協定が証明するとおり、ギニアにとって恩恵をもたらすものであると述べつつ、モハメッド6世国王に対し謝意を述べた。
- ② 署名式の冒頭、アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣は、今回署名した協定を通じて、モロッコはギニアとその経験を共有したいと考えている旨述べた。同大臣はまた、農業分野にかかる協定は、200-300ヘクタールの灌漑事業プロジェクト、トウモロコシ栽培の集合プロジェクト、国家的な地籍システムの設置にかかるものであると述べた。この点に関し、同大臣は、「緑のモロッコ計画」で行った灌漑及び水資源の管理について説明するとともに、ギニアの地権者を守り、土地の権利を経済的に活用するための国家的な地籍システムの重要性を述べた。
- ③ アリ・ファシ=フィフリ電力・水道公社（ONEE）総裁は、コナクリ市内の浄水プロジェクトについて、36キロの水道ネットワークの整備、2か所のポンプ基地と衛生装置の設置、浄化基地のアップグレードが含まれる旨述べた。
- ④ ベンナブドゥラ住宅・都市政策大臣は、モロッコが都市化計画において専門性と知見を発展させてきたと述べつつ、コナクリ市の都市化計画について説明し、今回締結された協定により、未整備地区の改善、不衛生対策、交通網の改良が行われる旨説明した。
- ⑤ ムスタファ・テラブ・モロッコ王立リン鉱石公社（OCP）総裁は、モハメッド6世国王の命に従い、本年のギニアの農業需要をまかなうために、ギニア向けに10万トンの肥料の生産を決定した旨述べた。同総裁は、この10万トンのうち2万トンが無償提供し、残りの8万トンについては、ギニア政府が肥料に対する政府補助金を減少・撤廃できるような価格で提供すると述べた。
- ⑥ 署名された協定・覚書は以下のとおり。
 - コナクリ市の整備にかかる協定
 - ギニアにおけるトウモロコシ栽培の集合プロジェクト実施にかかる協力枠組み協定
 - 地籍システム創設にかかる協定
 - 灌漑事業実施にかかる農業セクターにおける協力協定
 - コナクリ市の浄水プロジェクトにかかる無償協定（政府間）
 - 技術協力にかかる覚書

- コナクリ市の浄水プロジェクトに関する協力協定（ONEE）
- ギニアのための10万トンの肥料供与合意（OCP）

（6）モハメッド6世国王のコートジボワール訪問

27日、モロッコ外務・協力省は、24日からムーレイ・イスマイル王子とともにコートジボワールを友好実務訪問しているモハメッド6世国王が14の二国間協力協定の署名式に出席した旨発表したところ、概要以下のとおり。別途3月15日に発出された共同コミュニケによれば、モハメッド6世国王はワタラ・コートジボワール大統領とテタテで首脳会談を行ったほか、モロッコがコートジボワールで行っている協力案件の視察を精力的に実施した。

- ① 27日、モハメッド6世国王はワタラ・コートジボワール大統領とともに、コートジボワール・モロッコ経済推進グループ（GIE）のプレゼンテーション式典の際に、官民・民民の経済パートナーシップ協定の署名式に出席した。
- ② 署名された14の協力協定・覚書は以下のとおり。
 - 2016-2020年軍事プログラム法の優先プロジェクトの一つである「ヘキサゴン（HEXAGONE）」プロジェクトへの融資のための覚書
 - コートジボワール軍軍事要員に対する主要な宿舍購入の融資のための覚書
 - 薬剤製品の製造・商業化のためのコートジボワール薬剤産業ユニット立ち上げプロジェクトへの融資の覚書
 - 2017年コートジボワール政府公債調達のためのパートナーシップ協定
 - コートジボワール道路網の融資プログラムの設置にかかるパートナーシップ協定
 - 女性起業家が率いる中小企業への融資に関するパートナーシップ協定
 - 「競争力と雇用にかかる能力」プログラムに関する枠組み協定
 - 社会連帯経済と手工芸の発展のための枠組み協定
 - アビジャン・テクノセンター設立のための協定
 - 情報通信センター設立のためのジョイントベンチャー協定
 - INVOLYS社（モロッコ）とINOVA社（コートジボワール）間のジョイントベンチャー設立のためのパートナーシップ協定
 - 人と物の陸運のための車両の駐車スペース近代化・維持に関する覚書
 - 物流分野における協力協定
 - 公共交通と交通安全の分野における協力のための覚書

2 西サハラ関係

（1）ガルガラト地域における大量の麻薬の押収

（ア）22日夜、国家安全総局（DGSN）及び税関職員がモーリタニア国境付近のガ

ルガラト地域において、モロッコ・ナンバーのセミトレーラーの中に隠蔽された3, 134トンの大麻を押収した。

(イ) 国境の監視及び検査により、48歳のモロッコ人トレーラー運転手が逮捕されるとともに、大量の麻薬が押収された。この麻薬はアフリカ諸国向けの化粧品用の大瓶に隠蔽されていた。押収された麻薬は税関に送致されるとともに、容疑者は本件にかかる司法捜査を受けるため、関連治安当局に送られた。このオペレーションは麻薬及び向精神薬の国際的な密輸入に対する戦いの枠組みによるものである。

(2) ガルガラト情勢にかかるモハメッド6世国王とグテーレス国連事務総長との電話会談

(ア) 24日、モハメッド6世国王はグテーレス国連事務総長と電話会談を持った。この電話会談で、モハメッド6世国王は、ポリサリオの軍事要員による度重なる侵入とその挑発行為のために深刻なものとなっているガルガラト情勢について、グテーレス国連事務総長の注意を喚起した。

(イ) 王宮コミュニケによれば、これらの行為はモロッコのAU復帰1か月前から入念な準備を経て行われており、これは不和の種をまき、モロッコのAU復帰プロセスを妨害するためのものであった。

(ウ) 同コミュニケはまた、国王の命令に従い、外務省、内務省及び王立軍総監部が複数回に亘り、MINURSO及び国連に対してこれらの行為を指摘していたと述べている。

(エ) モハメッド6世国王はグテーレス国連事務総長に対し、停戦を深刻に脅かし、地域の安定を危険にさらすこの容認できない状況を終わらせるために緊急かつ必要な措置を取るよう要請した。

(3) ガルガラト緩衝地帯からのモロッコの一方的撤退の発表

26日、モロッコ外務・協力省は、ガルガラト緩衝地帯からのモロッコの一方的撤退を発表したところ、概要以下のとおり。

(ア) モロッコは、ガルガラト地域の深刻な状況にかかる2月25日付国連事務総長報道官発表を、関心を持って留意する。

(イ) モロッコは、国際法に従った国連事務総長の勧告と評価を記録する。

(ウ) この国連事務総長報道官発表は、24日に行われたモハメッド6世国王とグテーレス国連事務総長の電話会談を受けて発出された。

(エ) この文脈において、また、モハメッド6世国王の命を受けて、国連事務総長の要求が尊重され、直ちに適用されるために、26日から、モロッコはこの地帯から一方的な撤退を開始する。

(オ) モロッコは、事務総長による介入により、当該地域の情勢が回復し、その地位が無傷のまま保たれ、通常の陸運の流れが保証され、停戦が守られ、地域の安定が強化されることを期待する。

＜モロッコ要人の外国訪問＞

日付	国	氏名・肩書き	目的
2月1-2日	南スーダン	モハメッド6世国王，ムーレイ・イスマイル王子，エル・ヒンマ国王顧問，メズアール外務・協力大臣，ブーサイド経済・財政大臣，ベンナブドゥラ住宅・都市政策大臣，アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣（観光大臣兼任），エル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣（エネルギー・鉱山・水利・環境大臣兼任），ルアルディ保健大臣，ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ルアラク王立軍総監ほか	公式訪問，首脳会談，二国間協力協定署名，各種視察
2月9日	ハイチ	エル・マルキ衆議院議長	モイーズ大統領就任式典出席，同大統領表敬
2月15日	仏	ベルモフタール国民教育・職業訓練大臣	ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣との会談
2月16-18日	ガーナ	モハメッド6世国王，ムーレイ・イスマイル王子，エル・ヒンマ国王顧問，メズアール外務・協力大臣，ブーサイド経済・財政大臣，ベンナブドゥラ住宅・都市政策大臣，アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣（観光大臣兼任），エル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣（エネルギー	公式訪問，首脳会談，二国間協力協定署名，各種視察

		一・鉱山・水利・環境大臣兼任), ルアルディ保健大臣, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほか	
2月18日	ガンビア	エル・マルキ衆議院議長	バロウ大統領就任式典出席
2月19-23日	ザンビア	モハメッド6世国王, ムーレイ・イスマイル王子, エル・ヒンマ国王顧問, メズアール外務・協力大臣, ブーサイド経済・財政大臣, ベンナブドゥラ住宅・都市政策大臣, アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣(観光大臣兼任), エル・アラミ産業・貿易・投資・デジタル経済大臣(エネルギー・鉱山・水利・環境大臣兼任), ルアルディ保健大臣等	公式訪問, 首脳会談, 二国間協力協定署名, 各種視察
2月23-24日	ギニア	同上	公式訪問, 首脳会談, 二国間協力協定, 各種視察
2月24日-3月上旬	コートジボワール	同上	公式訪問(2月24-27日), 首脳会談, 二国間協力協定署名, 各種視察 私的滞在(27日-3月上旬)
2月27日-3月2日	ベルギー	エル・マルキ衆議院議長	実務訪問, タヤーニ欧州議会議長との会談

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
2月2日	仏	エル・コムリ労働・雇用・職業訓練・社会対話大臣	セッディキ雇用・社会問題大臣との会談
2月4-14日	チリ	オスヴァルド・アンドラーデ衆議院議長	公式訪問, ベンキラン首相との会談, エル・マルキ衆議院議長との会談, ベンシャマシュ参議院議長との会談, 両議会間協力協定署名
2月13日	スペイン	ダスティス外務大臣	メズアール外務・協力大臣との会談

(了)